

# PFASのリスク評価における文献選定及びその利用について

CERI文献調査事業（外部委託）

CERI文献**257報**

文献選定：書誌情報（著者、雑誌名等）、要旨（アブストラクト）から文献を選定

PFAS ワーキンググループ

毒性評価の基礎資料としての**文献セット**

**267報**

=

・CERI調査に含まれなかった海外評価の根拠文献：**29報**  
・WGメンバーが重要と判断した文献：**2報**

【WG追加文献】

+

【CERI選定文献】

要旨で選定した**236報**

評価書案作成：文献セット及び専門委員・専門参考人が追加した文献の全文を精査※し、評価書案を作成、WGで検討

※ <精査するときのポイント例>

- ・PODに直結する可能性がある文献
- ・対象のエンドポイントとPFASとの関係が示唆される文献
- ・メカニズムに関する文献

「文献差し替え」の指摘

食品健康影響評価評価書（最終案）

参照文献リスト※  
**268報**

※CERI選定257報のうち73報が参照

## 調査事業から評価書への引用文献

評価品目	調査事業			追加文献数③	追加割合 ③/④	評価書最終 参照文献数④ (② + ③)
	選定文献数①	採用文献数②	採用割合 ②/①			
ヒ素	386	184	48%	303	62%	487
アクリルアミド	507	256	50%	115	31%	371
鉛	411	137	33%	228	62%	365
カドミウム (第3版)	125	15	12%	293	95%	308
PFAS	257	73	28%	195	73%	268

中央環境審議会水環境・土壌農薬部会水道水質・衛生管理小委員会及び  
人の健康の保護に関する水・土壌環境基準小委員会合同会合  
(令和7年4月25日)における  
食品安全委員会による説明のポイント

○ パブリックコメント、報道等で「論文が無視された」「不透明なプロセスで評価の根拠となる参考文献が“差し替えられた”」等の指摘があったことを受け、下記のように説明しました。

### 1. 評価の準備段階における文献収集

- (1) PFAS ワーキンググループ (WG) による評価の開始に先立ち、評価の根拠となる公表文献等を収集するべく、一般財団法人化学物質評価研究機構 (CERI) に調査事業を委託しました。調査事業では、先進各国の評価機関による評価書で参照されている文献や学術論文データベースで検索された文献 2,969 報について、論文の概要 (アブストラクト) 等から内容を確認し、評価に使用し得るものとして選定した 257 報を取得しました。
- (2) WG の準備作業において、先進各国の評価書において毒性指標の根拠として参照されているにもかかわらず収集されていなかった文献を加えるなどして、計 267 報を毒性評価の基礎資料としました。

### 2. 評価書の作成過程

- (1) WG においては、各種の毒性 (エンドポイント) について、当該分野の専門家が、関連する論文の全文を精査した上で、様々な知見を総合して、科学的にどのような結論が出せるかを検討しました。その過程で、判断をより確実なものとするために、必要に応じて専門家自身が新たな文献の収集も行いました。これらの検討結果を論理的に整理し、まとめ上げたものが評価書となります。その際には、
  - ① POD (動物試験で得られる無毒性量など、毒性影響を検討する際に、どの量から影響が表れるかを調べた数値。健康影響を防ぐための指標値設定の根拠となる) の判断に直結する可能性がある文献。
  - ② ヒトにおけるエンドポイントと PFAS との関係が示唆される文献。
  - ③ 作用メカニズムに関する文献。等をとくに重視して科学的な議論を重ね、耐受一日摂取量 (TDI) を設定し評価書をまとめました。
- (2) 評価書においては、その結論に至る過程で述べられる様々な知見の根拠として引用、参照等された学術論文等が参考文献として末尾に掲載されます。すなわち、これらの参考文献の一覧は、評価書を作成する過程で新たに作成したものであり、1 の (2) で基礎資料とした文献のリストを元に、加除修正 (「差し替え」) して得られたものではありません。

### 3. 評価書に添付の参考文献リスト

- (1) 最終的に評価書には参考文献として 268 報が掲載されており、この数は CERI が収集した文献 (257 報) や毒性評価の基礎資料とした文献 (267 報) の数に近いです

が、これは偶然に数字が近くなったものです。268 報のうち、73 報は、CERI が収集した文献に含まれていたものとなっています。

- (2) 汚染物質の食品健康影響評価においては通常、PFAS と同様にまず、調査事業で文献を収集し、それを元に専門委員会やワーキンググループで評価を行います。どの汚染物質においても、評価書に最終的に参照文献として掲載されるものは、当初の調査事業で収集された文献とは違いがあり、それ以外の文献が多く含まれることとなります。例えば、ヒ素では評価書における参照文献 487 報のうち評価の過程で追加されたものが 303 報を占めました。2024 年のカドミウム（第 3 版）の評価では、308 報中 293 報が、評価の過程で追加されました。